

(株) エスピーネットワーク 磯崎哲也

#### ①大会出発前の状況・心境・目標

大会出発前の状況としては日本で 470Junior World 前の合宿が行われ、十分な練習ができた。心境は初めての国際大会だったので自分がどこまで通用するかわからなかったのが、目標としてはメダルを獲得する 3 位以内であった。

#### ②現地到着後の状況

今大会はチャーター艇で万全な整備、セッティングを行ったつもりであったが、大会前の練習レース中にトラブルがおきてしまい、貴重な練習レースに 1 日しか参加することができなく道具の調達に時間がかかり無駄な時間を過ごしてしまった時があった。

#### ③各レースの展開

テッサロニキの海面は時間が経つにつれ風向が左に変わる傾向と、右海面のブローが強い傾向があり右海面を使うのか左海面を使うのかを決めるのが難しい海面でした。レース展開としては基本的の上寄りのスタートを基本とし、そこから左集団を抑えながら走ることが僕たちの基本的なプランであった。その結果スタートが決まったレースは確実にシングルで回れ、確実に毎マークごとに追上げるチャンスを作ることができたが、スタートで競り負けることもあり自分のプラン通りにならないレースやリコールしてしまい良い順位でも水の泡になってしまった。今大会においては、UFD を二つもとってしまいカットしきれなくリコールした順位がそのまま得点に反映され厳しい戦いをしいられてしまった。

#### ④大会の印象

運営の下手際があり、レースの行い方に疑問を感じた。

日本では無い夕方 16 時に出艇することがあり遅い時は 19 時スタート予告がある時もあったので選手としては時間の調整が難しかった。

#### ⑤目標達成の有無

本大会の目標は 3 位以内であったが、結果は 8 位となってしまう目標達成をすることができなかったが世界に通じる走らせかたや、タクティクスとストラテジーの面で学ぶことが多く、今後のレース運びに対する考え方、艇の走らせ方を大きく見直すことができたレガッタであった。

#### ⑥今後のセーリング活動の目標

東京オリンピックに出場することでその為には、海外のレースに出場して世界トップレベルの走らせ方やストラテジーをレースしていく中で感じ取り自分の物にすることがとても大切だと感じている。

#### ⑦日本のセーラーに向けてのアドバイス

フィジカルと技術面も勿論、海外レースでのプロテストやコミュニケーションをする為に語学力がとても重要だと感じました。



## ① 大会出発前の状況・心境・目標

今年は江の島での合宿や、小戸での合宿もたくさんあって、かなりレベルの高い練習を行ってきた。その中で、オリンピックウィークなどでも優勝したりと、メダル獲得を目標として取り組んできた。

## ② 現地到着後の状況

テッサロニキの町は、気温が40℃に達することもあり、非常に暑かった。そのなかで水分補給や日に当たりすぎないなど、体力を消費しないことと、体調管理に、特に気を配る必要があった。

また、今回はチャーターボートであった。そのなかで、艇をしっかりと乗れる状態にするのに2日間かかり、また、思わぬ故障で事前練習や、事前レースがしっかりと取り組めないような状況も起きた。現地の人の対応も遅くて、なかなか思うようにいかないことも多かった。

テッサロニキでは本レース前に、地方のレースがあったため、ジュニアワールド以前に海外の選手とのレースの形が少し確認できた。

## ③ レースについて

昨年の大会では、スタートで競り負けてスタートで遅れていくということが多かったのですが、今レガッタでは、スタートで競り負けることが少なくて、しっかりとスタートが出られれば、1上マークの回航順位をシングル目で安定させられることができた。レース展開自体は、左にシフトしていくことが予測されていて、実際にそういう場面が多かったのですが、ブローがはいっているところが一番伸びてくるという印象でした。スタートが出ている印象ではあったのですが、実際は2つのUFDをとってしまって、いいレース展開をしてもすべて水の泡になってしまいました。スタートでは日本とは比較できないほど、周りの選手が積極的に動くので、周りを見るのが多くて、ラインに対してはかなりおろそかでした。クルーがラインを見るのは当然で、そこをもっと徹底することが必要です。

O旗が上がったフリーでは、順位を上げていけることが多かったのですが、クローズでロッキングを使うことが多くて、疲れている中での動きが、かなり粗雑で、スピンのパワー感も感じとっていきことがうまくできていなかった。平常の状態でも走るだけなら、もっと早くランニングを走れるはずなのに、体力のなさがレースで露呈されました。

## ④ 大会の印象

5 knot~6 knotの風の中では、出艇せずに陸上待機となるのが普通で、日本との違いを痛感させられました。長い風待ちの中、16時出艇や、遅い時で17時出艇・19時からスタートというレースもありました。非常に酷暑の中、陸待機だけで体力を奪われ、そこからレースとなることに戸惑いました。マークの位置などは普通でしたが、APが多いことが印象的でした。

## ⑤ 目標達成の有無

成績として目標にしていたメダルには、及びませんでした。最低目標であったメダルレースには出場しましたが、UFDや自身のミスが多かったことが非常に印象に残っていて、レガッタを通じてのレース内容としても、納得できるものではありませんでした。

## ⑥ 今後のセーリング活動の目標

今後のセーリング活動としては、大学でのインカレ個選や団体戦がメインになりますが、そこで優勝することが、現在の最大の目標です。まずはその大会で、絶対に優勝できるように集中して取り組みます。

## ⑦ 日本セーラーに向けてのアドバイス

今回のレースで感じたのは、世界の速い選手たちと戦おうと思ったら、本当に体力が必要です。いくらあっても足りないというくらい必要です。今しっかりとトレーニングをしていて、体力に自信があるという人も、どこまでも体力・筋力を高めていく必要があります。国際レースでは、O旗が上がらない状態ではあまりレースがありませんでした。つまり最後まで体を使っていける選手が勝ち上がれます。レース中に疲れて、パンピングができなかったり、集中力を欠いたりすると、どんどん落ちていきます。技術もちろん必要ですが、どっちも重要です。